



発行所

一般社団法人
全日本木材市場連盟
編集・発行人 小合信也
東京都文京区後楽1-7-12
〒112-0004 林友ビル6階
電話 03(3818)2906
FAX 03(3818)2907
毎月1回1日発行
定価・年3,000円
(会員は会費に含まれています。)

山本農林大臣新木場視察 （東京木材市場他）

平成29年01月19日（木）午後には山本有二農林水産大臣及び今井敏林野庁長官等農林水産省幹部が、新木場を視察し、木材業界幹部と意見交換等を行った。木材（原木・製品）流通の現状について理解を深めるため、木材会館（木材産業関係者との懇談）、木材市場及び木材・合板博物館を視察するという趣旨。山本大臣一行は、最初に新木場の木材会館を訪れ、吉条良明都木連会長（全木連会長）、島田泰助全木連副会長、市川英治都木連副会長（全市連会長）等と木材業界の現状・課題等について意見交換を行い、引き続き、吉条会長の案内で内外装に国産材を多用した木材会館を内覧した。地元選出の秋元司衆議院議員も同行した。その後、東京木材市場（株）（市川英治社長）に移動し、市川社長の説明で林場に並ぶ製材品を興味深げに視察された。大臣からは、林場に並ぶ製材品についての質問の他、大臣の地元産材等が話題となった。その場には早川金光全買連会長も同席した。最後に、一行は木材・合板博物館を訪れ、視察を終了した。最近の農林大臣の新木場視察は、一昨年に続き2度目。



（林場の視察）



（市場会議室での懇談）

日欧経済連携協定(EPA)交渉

昨年12月になって急に表面化した日本とEUの経済連携協定(EPA)交渉が2月にかけて大筋合意への協議が進められる。政治主導での流が予想される。自由民主党では、農林水産物の重要品目として、豚肉、乳製品等と並びSPF製材及び構造用集成材が挙げられている。日本にとってEUはSPF製材、構造用集成材（関税率3・9%）及びパーティクルボード（同5・0%）の最大の輸入先。交渉のポイントは輸入OSB（同5・0%）を含めたこれら品目の関税削減あるいは撤廃となる。これらと競合するスギ集成材及びスキD材並びに国産スギ合板への影響、ひいては山元立木価格等林業木材業界に大きな影響を及ぼすことが懸念され、日欧EPA交渉の行方を注意深く見守る必要がある。

平成29年度予算概案閣議決定（林野庁関連予算）

昨年12月22日、国は平成29年度当初予算案を閣議決定した。
林野庁関係予算は対前年度比100・8%の2、956億円で、28年度補正予算と29年度当初予算合計では、前年度（27年度補正と28年度当初）比453億円増となった。一般公共事業は1、800億円、内森林整備事業費1、203億円、非公共事業は、次世代林業基盤づくり交付金が70億円（対前年度比+9億円）、林業成長産業化地域創出モデル事

業（10億円）が認められ、全国で10箇所程度のモデル地域が選定される。川下対策を中心に主なものをトピック的に紹介すると、以下のとおり。

- ① 森林・林業再生基盤づくり交付金
国産材の安定的・効率的な供給等を図るため、木造公共建築物、木材加工流通施設、高性能林業機械の整備等を支援
- ② 次世代木材生産・供給システム構築事業
用途別に需要に的確に対応できる木材のサプライチェーンを構築するため、間伐・路網整備を推進
- ③ 林業成長産業化地域創出モデル事業10億円
川上から川下までの事業者がバリューチェーンでつながり収益性の高い経営を実現する「林業成長産業化地域」をモデル的に選定し、地域が提案する明確なビジョンの下での取組を重点的に支援
- ④ 新たな木材需要創出総合プロジェクト12億円（補正5億円）
中高層建築等に活用できるCLTの利用促進、セルロースナノファイバーなど新たな製品・技術の開発・普及の加速化、地域材の利用拡大を支援
- ⑤ 木質バイオマスの利用拡大（新たな木材需要創出総合プロジェクトで実施）4億円
木質バイオマスの利用促進を図るため、エネルギー利用拡大に向けた全国的な調査、新たなマテリアル利用の促進に向けた技術開発等を支援
- ⑥ 合板・製材生産性強化対策（補正330億円）
大規模・高効率の加工施設の整備、当

該施設への原料の安定供給のための間伐・路網整備等を支援

⑦シカによる森林被害緊急対策事業 2億円(補正1億円)

シカによる森林被害が深刻な地域において、地方公共団体等と連携し、広域かつ緊急的に捕獲、防除等を実施

■平成28年度第3回木材需給会議開催

林野庁は平成28年12月16日(金)に「平成28年度第3回木材需給会議」を開催し、「主要木材の需給見通し(平成29年第1四半期及び平成29年第2四半期)」を策定・公表した。

I. 見通しの要点

1. 平成29年第1四半期(1~3月)の需要は、合板及び構造用集成材は前年同期に比べ増加する一方、国産材製材用丸太は前年同期と同程度で、国産材合板用丸太、輸入丸太及び輸入製材品は、前年同期に比べ減少する見通し。

2. 平成29年第2四半期(4~6月)の需要は、輸入丸太及び合板が、前年同期に比べ増加する一方、国産材製材用丸太及び構造用集成材は前年同期と同程度で、国産材合板用丸太及び輸入製材品は前年同期に比べ減少する見通し。

3. 平成28年度の新設住宅着工戸数は、景気の緩やかな持ち直しを反映して前年度に比べて増加すると見込まれる。

II. 平成28年度第3回木材需給会議の意見等の概要

1. 経済情勢

・平成28年度の景気は横ばい圏を脱し、年度末にかけて緩やかに持ち直していく

と見込まれ、実質GDP成長率は前年比+1.3%となる見通し。

・平成29年度は、緩やかな景気回復が続く見込みで、雇用・所得情勢の改善が続く一方で物価が上昇基調に転じ、個人消費の伸びを抑制するが、世界経済の回復を背景に輸出が増加基調を維持、企業業績の改善を受け設備投資が緩やかな増加基調に転じ、景気を下支えし、同+1.0%となる見通し。

2. 住宅着工

・平成28年10月の新設住宅着工戸数(季節調整済年率換算値)は98.3万戸で2016年2月以降、100万戸前後の高い水準続き、調査機関平均値で2016年度97.1万戸の予測、2017年度の新設住宅着工戸数(見通し)は、同93.5万戸の予測。

3. 木材輸出動向

・平成28年の1月~10月累計の木材輸出額は、約19.2億円、対前年同期比+3.0%。

・品目別には、丸太は対前年比マイナス3.6%、製材品は同+32.9%、合板は同+68.6%等。

・国別には、中国約72億円、対前年同期比+3.1%、フィリピン約44億円、同+59.5%、韓国は同マイナス18.6%、台湾は同マイナス27.5%等。

4. 主要木材需給動向

(1) 国産材(需要(工場入荷))

①製材用丸太

・第3四半期実績は前年同期比+4.5%、第4四半期は同マイナス1.4%と見込まれている。平成29年第1四半期及び第2四半期は前期並み推移と思われる

主要木材の入荷量等の概要

(単位:千m³,%) (括弧内は前年比又は前年同期比)

	国産材丸太		輸入丸太	輸入製材品	合板	構造用集成材
	製材用	合板用				
26年計(実績)	12,211 (101)	3,191 (106)	4,086 (91)	6,430 (84)	6,297 (97)	2,137 (95)
27年計(実績)	11,835 (97)	3,358 (105)	3,359 (82)	6,132 (95)	5,656 (90)	2,030 (95)
28年第1四半期実績	3,102 (104)	912 (111)	992 (120)	1,600 (110)	1,459 (98)	499 (107)
28年第2四半期実績	3,107 (105)	971 (115)	916 (104)	1,642 (103)	1,450 (105)	555 (109)
28年第3四半期実績	2,870 (104)	857 (110)	789 (105)	1,639 (107)	1,452 (108)	572 (98)
28年第4四半期見込み	3,100 (99)	885 (97)	918 (102)	1,653 (107)	1,495 (103)	580 (114)
28年計(見込み)	12,179 (103)	3,625 (108)	3,615 (108)	6,534 (107)	5,855 (104)	2,206 (109)
29年第1四半期見通し	3,100 (100)	890 (98)	865 (87)	1,556 (97)	1,506 (103)	545 (109)
29年第2四半期見通し	3,100 (100)	900 (93)	940 (103)	1,616 (98)	1,488 (103)	560 (101)

る。木質バイオマスエネルギー需要が地域によっては一段落し、製材用等の需要にも目が向いてきたとの情報もある。

②合板用丸太

・第3四半期の実績は住宅着工の回復、国産材合板へのシフト促進、輸入合板減少、フロア合板等への国産合板の需要増で前年同期比で増。第4四半期は同様の需要はあるが前年同期比で減少の見込み。平成29年第1四半期は被災工場生産再開も前年同期並み、第2四半期は被災工場本格稼働により第1四半期より増加も前年同期比で減少の見通し。

(2) 米材

①丸太

・需要は平成29年第1四半期が米国利上げ、為替に左右されるが国内マーケット

在庫少なく、入荷増期待できず堅調に推移、価格は強保合で推移し、工場の生産増加は期待できず。第2四半期は為替に注目が必要、国産・外材とも堅調に推移、需要は前年同期比減と思われる。

・供給は第3四半期実績が前年同期比増、第4四半期は需要堅調で一定量の入荷が見込まれる。平成29年第1四半期は年始から伐採量を見込み、入荷も順調と予想。第2四半期は現地伐採も順調、第1四半期に比べ入荷量増と予想。

②製材品

・第3四半期実績需要量はプレカット工場稼働率上がり、荷動き回復、年内このペース期待されるが価格上昇には至らず円高に救われている感が強い。平成29年第1四半期は予想外の急速な円安、北米

材コスト上昇が予想され、相場上がらないと新規買い付け難しい。第2四半期は円安も続かず景気も昨年より悪化の可能性、住宅金利上昇傾向でプレカット工場も春以降の受注読めない状況。

・供給は第3四半期実績昨年同期ほぼ同、SPFに大手ビルダー等の先行手当てで予想より増。第4四半期はプレカット向け受注は来年1月まで高位安定、ダグラスファーは引き続き低調。平成29年第1四半期見通しは例年比少なく、1、2月まではプレカット向け受注動向等で安定と予想2、3月入港SPFは例年不需要期で数量減、第2四半期は米加関税率設定で日本向け供給量は異なってくるが日本向は多少増と予想。

(3) 欧州材(製材品供給)

・平成29年第1四半期は各社フル生産でラミナ・原板とも順調、端柄材も船積遅れのキャッチアップが完了見込。第2四半期は需要減・円安要因があるが大幅な減少はなく、例年通りの水準の見込み。

(4) 南洋材

①丸太

・製材向け需要は第3四半期実績が雨期前手当したが苦戦し供給に見合った出荷、第4四半期は現地丸太出材減に伴い出荷減の予想。平成29年第1四半期は供給に見合った需要で前年同期比減、第2四半期も同様も前年同期並みの見通。

・合板向け需要は第3四半期実績が針葉樹合板へのシフト、マンション建設低迷、産地価格高止まりで前年同期比減、第4四半期は前期動向の加速化とラワン単板輸入漸増で前年同期比減少見通。平成29年第1四半期、第2四半期とも前記要因

で前年同期比減、新潟港閉鎖により特に第1四半期の減少大と予想。

・供給は第3四半期実績が前年同期並みでほぼ需要に見合った入荷、第4四半期はメーカー閉鎖に加え駆け込み配船もな前年同期比大幅減の見込。平成29年年間入荷予想18万m³で四半期毎4・5万m³の予想も第1四半期が2、3月の新潟港閉鎖で大幅減、第2四半期は新潟港閉鎖を見込んで在庫増し、需要量以上の供給はないと予想。

②製材品

・需要は第3四半期実績が好調な住宅着工、店舗関係など実需増で前年同期比増、第4四半期は前期並の実需見通。平成29年第1四半期は住宅着工未完工物件等により実需増、第2四半期も手堅い実需と予想。

・供給は第3四半期実績が前年同期並、第4四半期は雨季入で原木供給減で入荷量減と予想。平成29年第1四半期はネシアメルクシフリー板供給減で減少、第2四半期は雨季明で数量回復の見通し。

(5) 北洋材

①丸太

・需要は第3四半期実績が前年同期比減、第4四半期も製材の需要回復見込みなく、板の需要も低く前年同期比減の見込。平成29年第1四半期及び第2四半期は需要回復見込めず前記同水準と予測。

・供給は平成29年第1四半期が現状の引き合い・出材状況から入荷は限定的、第2四半期は合板用米材の出材・価格次第であるが入荷減と予想。

②製材品(供給)

・第3四半期実績は中規模工場の入荷量

が夏を通し安定しており入荷量伸びた。第4四半期は冬シーズン早く始まったが入荷1月以降となり大きな増減はないと予想。平成29年第1四半期は20万m³程度の可能性あるが、日本向けの集材に苦戦しており、第2四半期は予想難しいが同程度と予想。

(6) NZ・チリ材

①丸太

・需要は平成29年第1四半期の輸出向上が円建原料費上昇し内地材シフト進み、高需要期もNZ材は頭打、第2四半期は低需要期で原木需要は下落と予想。

②製材品

・需要は平成29年第1四半期が高需要期、円安で輸出梱包需要後押しすると見られ前年同期や減を見込むが円安加速あれば需要伸びる可能性、第2四半期は低需要期のため減少見通。NZ材はフリッチ大大幅減により需要も30%減、チリ材は共同配船無くなり入荷時期不安定となり需要も5、10%ダウンと予想。

・供給は年間8船の予定、平成29年第1四半期、第2四半期ともNZ材は月16千m³、チリ材は月50千m³を見込が船のスケジュールで多少ばらつきが出ると予想。

(7) 合板

①国内製造

・需要は第3四半期実績で大手ハウスメーカーと大手プレカット工場が針葉樹構造用合板の手当拡大で前年同期比増、第4四半期は中小工務店・ビルダーが住宅受注拡大、中小プレカット工場も針葉

樹構造用合板の手当開始し前年同期比増の見込。平成29年第1四半期は季節要因で落ち込む北日本地区以外で住宅受注好調に推移し非住宅木造建築物の増加で針葉樹構造用合板は好調維持、プレカットメーカーへの納入遅れ気味状態続くと予想。第2四半期は住宅需要が多少落ち込むがフロア合板への供給増、型枠合板は一部型枠納材業者の手当てにより国産合板需要は好調に推移すると予想。

・供給は第3四半期実績で前年同期比増、第4四半期も同様前年同期比増の見込。平成29年第1四半期及び第2四半期は前期同程度で推移と思われるが、住宅着工動向及び型枠合板需要動向に注目。

②輸入合板

・需要は第3四半期実績が型枠合板、構造用合板とも荷動悪く中間決算を控えた商社が在庫処分売を行、前年同期比で減少、第4四半期は国産構造用合板の入荷遅で一部プレカットメーカーが代替に輸入構造用合板への手当てを行い、価格の低い型枠合板の手当を型枠納材業者が行い型枠及び構造用合板の在庫が払底状況となり一部仮需も起こり強気配の展開。平成29年第1四半期は住宅需要好調に支えられ、国産構造用合板の代替の輸入構造用合板需要続き、フローリングメーカーの輸入フロア合板手当続くと予想。輸入合板は不確定要素多く、価格の安定した国産合板への需要は拡大していくと予想。第2四半期は国産メーカーが型枠合板及びフロア合板の供給力つけ、輸入合板の需要が減少。産業用需要の薄・中厚合板は国産合板に供給能力なく引き続き輸入合板中心に手当てが行われ、梱包

用合板も引き続き安定供給され、需要は継続して出てくると考えられる。

(8) 構造用集成材(供給)
①国内製造

・第3四半期は堅調な住宅着工を受け高水準のプレカット需要もあり荷動き非常に堅調で生産量は前年同期比15%増、第4四半期も荷動き非常に堅調でメーカーはフル操業続き平成25年以来的高水準となる見込。平成29年第1四半期は生産日数少なく生産量落ち込む傾向、需要のピークは越えつつあるが受注残もあり前年第3四半期並の生産量を想定、第2四半期は需給が落ち着き、ほぼ前年同期並みの生産量を想定。

②輸入

・第3四半期実績は順調な入荷、第4四半期は現地夏休み明けのフル稼働で入荷順調の見込。平成29年第1四半期は需要旺盛で第4四半期成約多く1、2月の入荷順調の見込、第2四半期は現地天候次第で数量減の可能性もあるが、新工場からの出荷再開分も見込まれる。

第39回茨城県木材まつり(株)ミトモクで表彰式開催

(株)ミトモク(茨城県水戸市、安藤裕一社長)の新春初市が1月18日に開催され、併せて第39回茨城県木材まつり表彰式(茨城県木協連主催)が行われた。来賓として、茨城森林管理署下平敦署長、茨城県農林水産部水越健夫次長兼林政課長、茨城県林業協会の石川多聞理事長(茨城県議)、茨城県木材協同組合連合会の生井邦彦理事長、地元銀行関係者ほか来賓等多数が出席した。



(式典の様子)

式典に当たり安藤裕一社長は、「昨年の住宅着工は約96、97万戸で低金利、消費税の先行、賃貸住宅の好調等に支えられ、駆込需要時をやや下回割る程度で好調。当社の業況もまずまずだった。自分たちの力と勘違いすることなく、気を引き締め、材工も念頭に取組んで行きたい。今年の住宅着工は89万戸程度と見込まれるが、「不況もまたよし」である」等挨拶した。

来賓の下平署長の挨拶の他、県水越次長兼林政課長、県林業協会石川理事長及び県木協連生井理事長から祝辞が述べられた。昨年11月に行われた茨城県木材まつりの入賞者は、次のとおり。

- ▽農林水産大臣賞(造作用) (有) 銚田製材所(笠間市)▽林野庁長官賞(下地用) (株) 東山木材(笠間市)▽関東森林管理局長賞(下地用) (有) 野上製材所(常陸大宮市)▽茨城県知事賞(下地用) 川井木材(株) (大子町)▽茨城県農林水産部長賞(造作用) (有) 川井商店(大子町)▽全木連会長賞(下地用) 田中木材店(高萩市)▽全市連会長賞(構造用) (株) 林産(常陸太宮市)

初市のセリには多くの買方様が参加し構造材から造作材まで活発に買われた。

『ウッドデザイン賞2016』

農林水産大臣賞・林野庁長官賞等決定!

「ウッドデザイン賞2016」の農林水産大臣賞(最優秀賞) 1点、林野庁長官賞(優秀賞) 9点、審査委員長賞(奨励賞) 15点が決定した。農林水産大臣賞(最優秀賞)は、「歳月を経て変わることを愛でる」について木を用いて具現化し、多様な樹種と日本古来の伝統技法などを取り入れたコンセプトカー「SETSUNAI(トヨタ自動車株式会社)が受賞した。最優秀賞をはじめ世界に誇る日本の技術力を生かしたものの、世界の観光客を「木の温もりでおもてなし」するものなど新用途の木材利用の先進例が入選している。林野庁長官賞は以下のとおり。

- ①Jパネル(鳥取)(協) レングス、
- ②耐震補強技術「FORSY」(大阪)(株) 竹中工務店、③Roll Press Wood(山形)(株) 天童木工、④日本橋とやま館「富山らしさを表現する木づかい」(東京) 富山県(株)乃村工藝社、⑤新柏クリニック(千葉) 医療法人社団中郷会新柏クリニック、(株) 竹中工務店、⑥産官学連携「病院木質化プロジェクト」(北海道)(株) ハルキ、札幌市立大学、北海道ほか⑦堀切の家(東京) 桜設計集団一級建築士事務所ほか、⑧平成28年熊本地震における木造応急仮設住宅の供給(熊本) 日本建築士連合会、木と住まい研究協会、⑨大工と組むわが家再生(愛知)(株) 新和建設。

雑記帳

木簡というものがある。日本では昭和の末に平城京長屋王邸(奈良時代)跡から大量に発見されて話題になった。中国では、書写材料として紙が広く使われるまで竹簡とともに文書材料の主役として盛んに使われていた。中国では書物には竹簡が多く使用されたとのこと。中国から日本に文字が大量に伝わった時代には、すでに中国では紙があったので、竹簡の書物や文書は伝わらず、日本は竹が豊富であるにも関わらず竹簡は出土していないそうである。一方、木簡は現在までに38万点以上も日本国内で見つかっている。日本で多く使われ発掘されるのは表面に物品の名、文書の名などが書かれた荷札の役割をするものとのこと。奈良文化財研究所が平城京出土の木簡86点の樹種を調査したところ、スギ(30点)及びヒノキ(28点)が多数を占め、残りはコウヤマキ、サワラ、カヤ及び広葉樹も確認されている。中国では、地域によって、樹種が異なるようだが、紅柳(タマリスク)、胡楊(コトカケヤナギ)、松(紅松・チヨウセンゴヨウ・油松・マンシユウクロマツ等)及び雲杉(トウヒ属)等、朝鮮半島では松(アカマツ、チヨウセンゴヨウ)が多く使用されていたようである。いずれの国においても身近にあって、入手が容易で加工しやすく、耐久性のあるものが利用されている。木材の利用分野は世に替わって変わるが、これらも木材の特性を活用して我々の身近に木材を利用して生活を豊かにしてゆきたいものである。